

東 洋 医 学

科目責任者 濱 口 眞 輔

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

東洋医学は5世紀頃に中国から日本に伝来した古典的な医学である。しかし、今日の医療の現場でも西洋医学のみでは治療できない複雑かつ難治性の疾患に漢方薬が奏効することは多いため、本邦では、1976年に漢方薬が医薬品として正式に認可されて健康保険で使えるようになった。それ以来、現在でも多くの臨床医が西洋医学と共に漢方薬を日常の診療に取り入れており、われわれは良質な医療を実践するために、日常臨床における東洋医学の重要性を学ぶ必要がある。

本講義では、本邦における東洋医学（漢方医学）の重要性と現在の医療における東洋医学（漢方医学）の位置づけ、東洋医学（漢方医学）の基本的事項と臨床における使用の実際を解説する。

II. 担当教員

教授 濱 口 眞 輔（麻醉科学）

III. 一般学習目標

- ・東洋医学の基本的事項（歴史、基本的概念、診断法）を理解する。
- ・生薬と漢方薬（方剤）の重要点を理解する。
- ・各種疾患の漢方治療を理解する。
- ・鍼治療の原理を理解する。

IV. 学修の到達目標

漢方医学の特徴を概説できる。

東洋医学的診断法を説明できる。

漢方薬を構成する生薬の薬理作用を概説できる。

主な和漢薬（漢方薬）の適応を概説できる。

各種疾患に対する漢方薬を選択できる。

（医学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版 CS-02-04-14「漢方医学の特徴、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用について概要を理解している。」（p43）に準拠）

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他）

東洋医学

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	5	2	金	5	東洋医学の歴史、概念	濱 口 眞 輔 （麻醉科学）	1
2		2	金	6	東洋医学的診察法	濱 口 眞 輔 （麻醉科学）	1
3		23	金	4	生薬と方剤	濱 口 眞 輔 （麻醉科学）	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
4	5	23	金	5	漢方薬による治療法1（感冒，婦人科疾患など）	濱 口 眞 輔 （麻酔科学）	1
5		23	金	6	漢方薬による治療法2（頭痛，認知機能障害など），鍼治療	濱 口 眞 輔 （麻酔科学）	1

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験成績（60％），出席（20％），態度（20％）を加味して総合評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指定せず，シラバス・プリントを基本とするが，推薦図書を以下に示す。

（推薦図書）

1. 日本漢方医学教育協議会 編集 「基本がわかる漢方医学講義」（羊土社）
2. 日本東洋医学会学術教育委員会 編集 「学生のための漢方医学テキスト」（南江堂）
3. 日本東洋医学会学術教育委員会 編集 「入門漢方医学」（南江堂）

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し，事前のアポイントは秘書を通して申し込んで頂きたい。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の正答は適宜開示する。

レポートは行う予定はない。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

適宜提示する。

XII. コアカリ記号・番号

医学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版（p43）

CS-02-04-14